

第3回若葉区地域福祉計画推進協議会 会議録

日 時 平成19年12月8日(土) 午前10:00～午後0:15

場 所 若葉保健福祉センター3階 社協大会議室

委員定数：32名 出席委員数：20名 傍聴人：0名

事務局：8名

【1】次第

- 1 開会
- 2 若葉保健福祉センター所長挨拶
- 3 議題 (1) 千城台東町自治会「長寿社会の安心システム」への取組みの発表
 - ・情報交換(2) その他
 - ・平成19年度パイロット事業について
 - ・千葉市地域福祉計画の進捗状況の報告

【2】議事の概要

- (1) 千城台東町自治会「長寿社会の安心システム」への取組みの発表
千城台東町自治会古内会長から「長寿社会の安心システム」について発表があった。
 - ・情報交換
質疑応答に変更し、各委員から活発な質疑がなされた。
- (2) その他
 - ・平成19年度パイロット事業について
事務局から報告があった。
 - ・千葉市地域福祉計画の進捗状況の報告
事務局から報告があった。

【3】発言要旨

【議題(1) 千城台東町自治会＜長寿社会の安心システム＞への取組みの発表」における質疑応答】

- (委員長) 前は、社協地区部会の視点から地域福祉についての事例を発表していただき、いろいろと検討させていただきました。
- 今回は、自治会の視点からこの地域福祉について発表していただきます。大きな柱としての地区部会、自治会この2つの視点から発表していただくということで、それぞれの地区に持ち帰っていただき、地区部会、自治会でどういった取組みができるのか、自分の地域でどのような活用ができるのか、また、新たな視点やヒントをいただいて地域福祉の推進に繋げていければと思います。
- 今後も、さまざまな団体からご発表いただき理解を深めていきたいと思っています。聞くとところによると、自分達がこんな活動をしているということを是非皆さんに伝えたいという方が数多くいらっしゃるということです。
- 昨年のパイロット事業の推進もそうですが、目に見えない所で、離れた地域でやられていた活動が、この地域福祉計画の名のもとに声を上げてくださったということで大変嬉しく思います。それらを本当に若葉区の力としていくために、是非皆様の力をお借りしたいと思います。
- それでは、千城台東町自治会の「長寿社会の安心システム」について、発表をお願いいたします。

(古内自治会長) 千城台東町で自治会長をしている古内と申します。

千城台東町自治会の「長寿社会の安全システム」とはどういうことを狙ったのかということですが、昭和40年代初頭に造成された若葉区千城台団地も人口の減少、高齢化が大きな問題となっており、高齢者が生活する上でいろいろな支障が出始めています。今回の自治会活動への取り組みの発端は植木の張り出しでした。3年前から回覧等で呼び掛けてもなかなか改善が見られず、剪定ゴミの搬出等についても土木事務所や環境事業所、緑地事務所等へ協力を要請し、期日を決めて処理をするなどの手を講じました。ほとんどの方に協力いただき、見違えるようにきれいになりました。しかし高齢者で切れない方もあり社協のボランティアに頼んで一部切ったものの、剪定のお願いに行く先々では高齢者の生活上の様々な不便についての相談があり、高齢者問題への取り組みを早急にやらなければならないと痛感しました。その後社協事務所で松戸の常盤平団地を取りあげた事例を紹介され、真剣に取り組むことが必要だと感じ、町内の人口構成などを調べることとなりました。関心をもってもらうためにNHKのドキュメンタリーとして放映された松戸の常盤平団地の「ひとり団地の一室で」のビデオの上映会を企画したのですが、基礎データが必要ではないかとの問いに答えるため前段階として昨年12月にアンケート調査を全戸に配布し1,091件82%回収しました。私どもが往時の千城台団地は戸数約8,000戸、人口約3万人といわれましたが、現在は8,400戸、1万9千人、一戸当たり2.2人の極端な核家族現象であります。アンケートの調査結果の当地の人口構成を見ましても65歳以上が31%、千葉市の平均17.2%に比べ、際立って高いものでした。60歳以上の世帯主に「日常生活の悩み」を10項目から選んで貰うと、回答390人中、最多は「庭木の手入れ」(82人、21%)でした。また60歳以上の世帯主に「一人でいるときの緊急対処方法」を尋ねると、回答244人中114人、47%は「親族が近くにいるので問題はない」という回答でしたが、81人、33%は「自治会の班単位、社会福祉協議会に」また43人、18%が「向こう三軒両隣の命の電話を構築」をとのこと、近隣に期待を寄せる方々が合計121人と過半数でした。

本年2月にNHKのドキュメンタリービデオの上映会を実施し、孤独死と向き合う現実を知るとともに自治会活動の取り組む姿を見て頂き感動し地域力の必要性を痛感した次第です。少なくとも近隣は良き人間関係の構築が大切だと思い、隣近所が仲良くして、関心をもってお互いをみていただきたいという発想のもとに取り組んだのが、この活動です。私たちの地域では「孤独死」の問題は幸いにもまだ起きていませんが、他の地域では「独り暮らしで、誰にも看取られることなく、亡くなる」事件も起きています。せめて自分達の住んでいる地域では「孤独死」を未然に防ぎたいと考えています。その他、病気になった時も地域でお互いが手を差伸べることができる町にしたい、そのシステムを作り上げたいということです。自治会の活動については親睦を図るためふれあい祭り、バス旅行、グラウンドゴルフ、ふれあいウォーキング、病院から講師を招き健康講話の開催などを行っております。また防犯灯340個と90数箇所のゴミステーションの維持管理も、かなりの労力と予算をかけて行っています。防災訓練や防犯パトロールも行っていますが出席する人は限られ、長年の間ではマンネリ化してきていて、どうしていくかは今後の課題です。その他盗難放置自転車の片付けや、不法投棄のものについても住民からの連絡がないことも多く、担当の理事さんは非常に苦勞されています。敬老事業も予算が高齢化に追いつかない状況です。ただでさえやりくりで苦慮しながら行政にお手伝いしている部分もあるのに、住民からは自治会費の値下げの要求や自治会から脱退したいという風潮にもなっており、役所や自治会の取り組みも含め、啓蒙活動はどうしたらよいかと考えています。65歳以上の住民が50%を超えるとその部落の存続は難しくなるという限界部落

という言葉があるようですが、これが日本中には7千8百箇所、その内危険に晒されている部落は2千6百箇所もあるそうで、このままではどんどん増えていくでしょう。私どもの地域でも1世帯あたり人口が2.2人というのは非常に厳しい数であると言えます。

アンケートの結果では、ボランティアの協力をしたいという回答が42%あったため、福祉についての取り組み内容を厚生部で検討しました。しかし実際にボランティア募集をしてみると希望者はたったの2名、また近隣の交流を図ろうと、特にリタイアした男性を引っ張り出すために募集したラジオ体操の希望者は7名でした。試しとして150世帯にアンケートを取った結果、16名と7家族の参加希望があり8月7日より第二公園で毎朝7時よりラジオ体操を行っていますが、この一番の狙いは身体を動かすことによる病氣予防で、その他の効果として隣近所に一言あいさつする習慣付け等があります。常盤平のケースを鑑みて、最低限の見守りを自治会でできないのかということで、「関心と思いやり」というキーワードでとにかく隣近所に関心をもっていただき、ホットな環境をつくるための取り組みを考えています。また緊急時に家族や親族に連絡する安心登録の取り組みでは個人情報の問題があるため、賛成者のみに参加してもらうのがよいのではないかと考えています。行政にも情報をもらえない中で今後全世帯数の内100世帯の独居家族を見守ることは大変ですが、少なくとも見守りは自治会に課せられた仕事ではないかと思っています。個人的にはガス会社や象印の魔法瓶のサービスを使っている人もいますようですが、緊急時の連絡は近くの肉親か、ご近所の方です。向こう三軒両隣の地域の力が大切です。民生委員や社協方々も大変お仕事をされていますが少ない人員での速やかな対応はでき兼ねることでしょう。近くの他人の力こそ本領というものではないのでしょうか。行政の安心電話も何台設置されているということだけしかわからない。新聞が郵便受けにたまっていたら、連絡し合う体制づくりなど、とにかく見守りの雰囲気を作るためにこれからは親睦の部分にも力を入れていかなければならないと思っています。労多くして効果がないとしても、足跡は肥やしであるという言葉どおり、自分の目で見て感じながら土壌を作るためにがんばっていきたいと思います。何かございましたら、ご意見いただければと思います。

(委 員) 東町自治会の組織と会費について教えてください。

(自治会長) 会長1名、副会長4名、理事24名、班長116名で、総務、会計、環境生活、厚生、広報、保安管理の6部制です。会費は300円ですが、自治会館で事務員を二人雇っているので会計は火の車です。

(委 員) 役員の任期は何年ですか。

(自治会長) 会長、副会長は原則1年ですが、最長で3年までとなっています。

(委 員) 自治会の入会率、脱会率について教えてください。

(自治会長) 自治会の入会率は90%で、脱会する方は年間で1～2名程度です。

(委 員) 自治会の入会率が90%ということですが、残りの10%は入会していないということですか。

(自治会長) 現実に寝たきりの方であるとか、自治会の活動ができない方が殆んどです。

(委 員) 先程のお話からすると、その10%の方々が一番手を差し伸べなければならぬターゲットということでしょうか。

(自治会長) 現に福祉の支援を受けている方が殆んどです。

(委員長) 予定ではグループ討議となっていますが、皆さんからご質問をしていただいた方がよろしいかと思いますが如何でしょうか。

(委員全員) 賛成

(委 員) 私の自治会では役員も高齢化してきていますが、年齢構成はどのようになっ

いますか。

(自治会長) 把握はしていませんが、皆さん50歳は過ぎていると思います。

(委員) 防犯パトロールの人数と巡回の頻度、「高齢者安心対策移行準備」として20万円を予算化したとのことですが、どんな骨子、内容をお考えなのか教えていただきたいと思います。

(自治会長) 防犯パトロール150名強が登録しており、その40%が参加している。ただ、同じ人しか参加しない傾向にあり、輪番制が取れない状況になっています。頻度については、第2, 4土曜日の月2回で、時間は18時から1時間です。高齢者安心対策移行準備」の20万については、今年度は殆んど使われていません。

(委員) アンケート調査などは厚生部の方たちがやっているのですか。

(自治会長) 今は副会長が中心となってやっています。

(委員) 私も1千世帯の自治会長をしているので同じ悩みを持っていますが、質問というより行政の方へ提案をさせていただきたい。

子どもの教育にしても高齢者にしても防犯にしても地域で何とかしようということになっているが、なにをもって地域と言っているのか分からないし、自治会からボランティアを募ってもなかなか集まらないのが現状です。

自分達が住んでいる地域にもNPOはあると思いますが自分達にはどんな人が何をやっているのか何処にどのようなNPOがあるのかわかりません。そこで、一生懸命福祉活動をしているNPOと自治会との接点を行政側に取り持ってもらいたい。NPOより自治会の方が組織力があります。お互いの弱点を補うという意味でもNPOと自治会との連携は非常に有効だと思う。行政のどのセクションに話していいのか分かりませんが、是非働きかけをお願いしたいと思います。

(委員) 私のところは2百世帯の自治会ですが、大きな自治会とは動き方が大分違うという印象を受けました。小さい方が小回りが利くこともあり、目が届くという展開ができると思うので、1～4丁目を4ブロックに分けてそれぞれ競い合うというのはどうでしょうか。ちなみに、私どもの2百世帯ですと自治会費は450円です。300円では活動経費は出せません。

いろいろお話を伺って、東町自治会長全体の集まりだけではなく、世帯数が違う2～3ヶ所の自治会長や社協の会長たちとの情報交換の場が欲しいという感じがしました。私は地区部会の会長をしていますが、今一番取り組みたいと思っているのが宅老所的な福祉です。孤独死をなくすことは当然ですが、隣近所2～3軒が集まってやるという仕組みづくりを社協がやらなければならないと思っています。防犯のあり方にしても、必ずしも集まってやらなければならないものではなく、日常の声かけなども防犯だという位置づけをするような仕組みができるのではないのでしょうか。地域通貨の前に、もっと身近な所からやる必要があると思います。

(委員) 「安心システム」の構成委員について教えてください。

(自治会長) 厚生部が主体です。

(委員) 厚生部は何人ですか。

(自治会長) 会長を含めて5名です。

(委員) 私は、前東町自治会の会長ですが、この「長寿社会の安心システム」に取り組むに当たり、当初から相当難しいという思いがあり、「高齢者安心対策移行準備」の20万にしても、システムをこれから立ち上げていこうというためのお金です。

今日の委員の皆様の貴重なご意見を伺い、古内会長も悩むとは思いますが、いずれにしても、一地区一自治会でやるには非常に難しいものがあると思います。是非、補助金も含めた行政の指導をいただきたいと思います。

(委員長) 貴重なご報告をありがとうございました。

【「議題(2) その他 ・ 千葉市地域福祉計画の進捗状況の報告」についての質疑応答】

- (委員長) 市の地域福祉計画については、6区ある区的地域福祉計画を統括する形で、あるいは全市的な取り組みとして、制度として、また、建物などを整備する形で進められています。これについてはどのような形で進んでいるのか興味があったところなので、是非、皆さんも気になる点やご意見がありましたらこの機会にご発言をいただきたい。
- (事務局) 市の福祉計画は、各区の計画に盛り込まれた自助・共助を中心とした取り組みを支援する公的施策や地域福祉計画を推進するための基盤作りとして、全市的に実施すべき行政施策を盛り込んでいます。
- 計画は、福祉課題から具体的な方策に向けた道筋を整理し、5つの基本テーマに集約し、その次に計画を具体化するという事で、その方策として情報、相談、居場所の確保など12の項目に分類している。具体的な事業としては資料に記載のとおりですが、全体で105事業あり18年度は98の事業が実施され、率として93.3%となっています。参考までに、19年度の状況ですが10月1日現在で94.3%の実施となっています。
- 資料5ページの№51をご覧ください。都市交通課が所管している「交通アクセスの確保」ですが、この事業は「若葉区福祉計画」の48ページ(21)交通不便地域の解消を支援するものです。
- 市・計画に盛り込まれた事業が住民の自助・共助を支援する公助として位置づけられているものもごさいます。さらには、地域住民からの推進を期待されていることを認識し、今後も所管課への事業の推進を働きかけていきたいと存じます。
- (委員長) ご質問はありますか。
- (委員) 資料のなかに地域包括支援センターの創設とありますが、若葉区ではどの地区にどのような形で創設されるのですか。
- (委員長) 区内に2箇所というのは、すでに設置済みだと思います。
- (事務局) すでに各区に2箇所設置されており、若葉区ではシャローム若葉、ちば美香苑があんしんケアセンターとして設置されています。
- (委員) 私どもの地域で見ますと、一人暮らし、高齢夫婦の日常的な不安の一つは、何かあった時に近所や誰かに連絡する手段が欲しいということです。市の福祉課にお尋ねしたところ「命の電話」があるとのことでした。また、電波で常に位置がわかるシステムも希望者には貸与しますということでしたが、整理してもう一度説明していただきたい。
- (事務局) 区の福祉サービス課では、65歳以上の一人暮らしの方を対象に「安心電話」を貸与しています。9時から5時の間に連絡を入れるというもので、福祉サービス課が受付を行っています。
- (委員) 福祉課から希望者に電話をするシステムになっているのですか。
- (事務局) 委託業者から定期的に電話することになっています。
- (委員) 一日何回電話されるのですか。
- (事務局) 一日一回です。先程の電波で居場所がわかるシステムについてですが、お調べして後ほどご返事いたします。
- (委員長) 資料が多く見るだけでも時間が掛かると思います。持ち帰って目を通していただき、詳細については所管課へお問い合わせください。
- 一点お願いがあります。市の地域福祉推進協議会がまだ設置されていないのですが、そのため各区の取り組みがどのようになっているのか、各区の事業がどのように展開されているのかよくわかりません。できれば各区の委員長、副委員長を入れて情報交換の場を作っていただきたいと思います。
- (事務局) 3月の下旬に予定しています。日程が決まり次第ご連絡いたします。

【「議題(2) その他 ・平成19年度パイロット事業について」における質疑応答】

- (事務局) 第2回推進協議会で説明させていただいたパイロット事業ですが、若葉区からは申請がありませんでした。市全体では、美浜区と稲毛区の2地区部会から申請があり決定いたしました。19年度のパイロット事業の残金30万の使い道については、社協本部と市で協議しております。
- (委員長) 20年度のパイロット事業の予算については、どのようなになっているのでしょうか。
- (事務局) パイロット事業はもともと地域福祉計画のきっかけ作りということで、18年度特別に予算をいただきました。非常に好評でしたので、19年度も30事業分ですが予算をいただきました。しかし、暫定的なものでしたので20年度は予算をいただけない見込みです。
- (委員長) 社協として、それに代わるような予算組みというようなお考えはないのでしょうか。
- (事務局) 市社協の方で協議しているということは聞いていますが、具体的にこうするというような正式な報告はきていません。
- (委員長) 先程説明のあった2件のパイロット事業もNPO法人との連携ということで、また、新しい発想でやる事業展開も上がってきているようですから、是非、勢いを止めないようお願いしたい。経済的な意味での援助というものも、18年度、19年度に大きな力になったと思います。引き続き何らかの形で援助いただけるような、あるいは仕組みのなかでも援助がいただけるような仕組みづくりに努力をしていただきたいと思います。そのための知恵をこの推進協は出せると思うので、その辺も考慮していただきたいと思います。
- (委員) パイロット事業が好評であったといいながら2件の申請しかなかった、それで30万余っている、その使い道についても検討しているとのことですが、もう少し詳しく説明いただきたいと思います。
- (事務局) 19年度当初、300万の予算をいただき25のパイロット事業の申請をいただきました。残り50万についてNPO法人との連携事業に限定させていただき2件の申請があったということで、19年度については計27件の申請があったということです。
- (委員長) 前回も、NPO法人格を前提とすると団体がかなり限定されるため、そういう枠を払えばもっと申請が上がってくるのではという意見がありました。30万の有効な使い道について、何かご意見はありますか。
- パイロット事例集を作成していると思いますが、その区版を作ろうという話もあったと思います。個人的にはそのために予算をいただけないかという気がしています。推進協のなかで推進のためのPR活動に使わせていただくことも可能ではないかと思いますが、そんなアイデアがあがってくると有効な使いみちを考えられるのではないのでしょうか。
- 事例集についてはどんな状況でしょうか。
- (事務局) 第1回の編集会議を8月23日に開催し、その後、現地に取材に出向き写真も撮ってきました。原稿のまとめ一歩手前までできています。今月21日に第2回の編集会議を予定しています。来年の2月下旬か3月初旬には完成の予定です。完成しましたら委員の皆様にも配布したいと考えています。
- (委員長) 編集委員から委員会の様子等について何かありますか。
- (委員) 前回の会議で他区の方と初めてお会いし、その後6区の方と情報交換会的なことをしましたが、地域性がかなり出ていたので、次回の会議では、内容を検討しながら疑問があればもっと詳しくきいて、情報交換できたらと思っています。
- (委員長) 事例集ができ上がったら、6区の委員の方に紹介できるような方が集まって発表会をするのはいかがでしょうか。それにパイロット事業の残りの30万円は使

えませんか。顔をあわせて直接活動について聞ける機会がある方がもっと生かせるし、活動につながっていくのでは。そのようなことも事例集から得られるのではないかと思います。東町自治会の方には長時間に渡り、貴重な発表をありがとうございました。今後は是非推進協の方にもご参加いただいてご意見を賜ればと思います。

推進協議会の今後の持ち方も含め、何かご意見ありますか。

(委 員) 冒頭に委員長から事例集の若葉区版を作成してはというご意見がございましたが、私はそれを大いに支持したい。推進協では各委員さんたちが一生懸命に話し合いをされていますが、一般の方にはあまり知られていない。私のPR不足かもしれませんが、皆さんのところはいかがですか。こういう状況の中でもあちこちに地域福祉活動の実践の芽がでてきているように思います。前回の加曽利地区や今回のお話のようなことが地域福祉の実際であり、このような活動を始めするには何かきっかけとなるものがが必要です。そのために、若葉区内での活動を紹介する若葉区版事例集を実現していただきたい、という要望です。

(委員長) 第2回の推進協だよりの裏面にフローチャートがありますが、今回の資料もそういった形での活用を考えておりますので、自治会等で回覧に回す際には、推進協で話し合われている旨を書き添えるなどして、ぜひ組織の中で広めていただければと思います。是非貴重なご意見を生かしていきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

以上、午後0時15分を以って全ての議事が終了し閉会した。